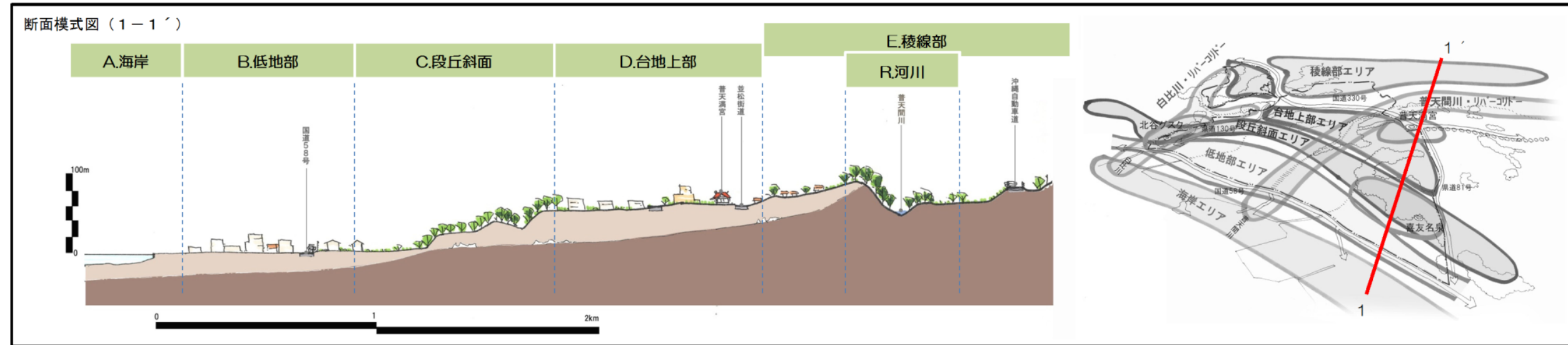


1) エリア毎の特性

設定した当地区のエリアに対して、先述の水と緑に関わる要素などを観点として詳細に特性を分析した。その結果、C. 段丘斜面エリアに自然度の高い植生が存在するとともに、生活・文化に関わる資源が集中するなど重要なエリアであるということがわかった。また、当地区を東西方向に流れる4つの水路・河川も自然度の高い植生や人々の生活の営みを感じる文化的な景観が存在するなど重要なエリアであることがわかった。



	A. 海岸エリア	B. 低地部エリア	C. 段丘斜面エリア	D. 台地上部エリア	E. 稜線部エリア	R. 水路・河川・渓谷・湧水
地形	標高10m以下の平坦地 南北方向に帯状	標高10m以下の平坦地 南北方向に帯状だが、半円状に 段丘斜面に囲まれる	標高10～60mの斜面地 低地部を半円状(扇状)に取り 囲む	標高60～80mの平坦地	標高80m～100mで起 伏のある地形	段丘斜面で取り囲まれた地 形の中に東西方向へ谷地形 を形成
地質・水系	沖積層	琉球石灰岩	琉球石灰岩 雨水浸透 崖線下部に湧水・湧泉	琉球石灰岩	島尻層(泥岩、砂岩)	普天間川、白比川 2つの水路 崖線下部に湧水・湧泉
植生	植生自然度1 (潜在) (現存)草地、芝生地	植生自然度1 (潜在) (現存)草地、芝生地	R周辺に植生自然度7or8 (現存)R周辺に群生地 草地、芝生地、常緑低木	R周辺に植生自然度7or8 (現存)R周辺に群生地 草地、芝生地、常緑低・高木	植生自然度4～8 (現存)草地、芝生地、常緑 低・高木	植生自然度7or8 (現存)溪谷斜面に自然度の 高い緑。群生地。
生活・文化	旧集落が現国道58号沿道あ たりに存在	旧集落が現国道58号沿道あ たりに存在	崖線下部に湧水・湧泉群(喜 友名に多い)、北谷城(文化 資源が多様で豊か) 泉、製糖小屋、拝所等の生活 施設が存在	普天満宮 泉、製糖小屋、拝所等の生活 施設が存在	中城(中城公園)	普天間川沿いに普天満宮 湧水地に喜友名泉 白比川沿いに北谷グスク
景観	海岸線は海への眺め 東方向は段丘斜面に囲まれ 奥行きのある景観	海岸線は海への眺め 東方向は段丘斜面に囲まれ 奥行きのある景観	西方向へは海岸を俯瞰する 眺望景観	西方向へは海岸を俯瞰する 眺望景観	西・東方向双方、海岸を俯瞰 する眺望景観	自然豊かな緑地景観 人々の生活の営みを感じる 文化的景観
接收前の土地利用	水田	棚田、集落点在	棚田、段々畑、樹林地 すそに集落点在	畑地、樹林地、 集落点在	畑地、樹林地、 集落点在	樹林地
現況土地利用	商業施設主体	インダストリアルコリドー 施設系土地利用が中心 街区が大きい	低層住宅主体 クラスター型の街区	低層住宅、施設群	低層住宅主体 沖縄自動車道	—
既存調査・構想等 による位置づけ	国道58号沿道の景観形成 交通結節点		低地部を囲む緑の帯、喜友名 ～北谷グスク、西普天間住宅 地区	西普天間住宅地区、普天間飛 行場周辺まちづくり拡充構 想	ロウアープラザ地区、喜舎場 住宅地区	

図2-36 エリアの特性分析

(6) 全体コンセプト設定

1) キャンプ瑞慶覧緑地整備の全体コンセプトの考え方

上位関連計画を踏まえ、当該地域における緑地整備の全体コンセプトを検討した。中南部都市圏駐留軍用地跡地の緑地保全及び緑化方策の検討調査報告書（H23.3）や中南部都市圏駐留軍用地跡地の広域構想策定調査報告書（H23.3）及び中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想（H25.1）で整理されている考え方をもとに、以下のコンセプトを設定した。

●キャンプ瑞慶覧緑地整備の全体コンセプト

○生活者に「安らぎと潤い」を、来訪者に「魅力（歴史・文化・風景）」を与える緑地整備

- ・新たな街に住む生活者に対して、公園や道路・河川緑化などにより「安らぎと潤い」を与え、住みよい住環境整備を行う。
- ・変化にとんだ地形やそれによって生み出される風景、更には歴史・文化資源などの「魅力」を発信することで、来訪者に感動を与える整備を行う。

2) 緑地整備の方向性

全体コンセプトを実現するため、広域的な緑地ネットワークとしての緑地整備、歴史文化や自然資源と関連する緑地整備、新しい市街地形成に必要な緑地整備の観点から、三つの緑地整備の方針を立案した。

●観点1：広域的な緑地ネットワークとしての緑地整備

■緑地構造の特性

- ア) 基本的な地形は改変されておらず接收前の地形を保っている。
- イ) 北谷グスクから喜友名、さらには普天間飛行場まで緑地帯が続いている。
- ウ) 河川周辺の一部に豊かな緑が残っている
- エ) 喜友名には斜面の一部に接收前にあった「棚田」の地形が残されている。

■緑地構造に係る緑地整備の配慮事項

- ア) 地形の大きな改変の回避、地下水系の保全、地形を活かした風景形成
- イ) 豊かな緑のネットワーク確保
- ウ) 緑豊かな河川空間の保全
- エ) 現状の緑の状態の適切な評価と緑の再生



考え方①：

地形や河川・地下水系などを保全・活用し、豊かな環境と美しい景観を生み出す広域的な緑地構造の形成

図 2-37 緑地整備の方向性＜1＞

<p>●観点2：歴史文化資源や自然資源と関連する緑地整備</p>
<p>■歴史・文化・自然資源と緑の特性</p> <p>ア)北谷グスク、喜友名グスクなどの重要な資源が保存されている。</p> <p>イ)普天満宮の周辺には貴重な緑がある。</p> <p>ウ)北谷グスクの「東の御嶽」や北中城村の「ナスの御嶽」周辺の緑は保全されている。</p> <p>エ)喜友名の一部に喜友名泉など昔の生活の面影を残す部分がある。</p>
<p>■歴史・文化・自然資源に係る緑地整備の配慮事項</p> <p>ア)重要な歴史・文化資源の保全</p> <p>イ)失った歴史・文化資源の再生・復元</p> <p>ウ)歴史・文化資源周辺の緑地の保全・育成</p> <p>エ)歴史・文化の伝承、観光への活用</p>



<p>考え方②：</p> <p>歴史文化資源、自然資源などと一体となった緑の保全・活用により地域の方々への<u>歴史・文化の伝承と、観光客への魅力提供</u></p>
--

図2-38 緑地整備の方向性<2>

<p>●観点3：新しい市街地形成に必要な緑地整備</p>
<p>■キャンプ瑞慶覧地区内の現在の緑の特性</p> <p>ア)広々とした空間が形成されており、大きく緑を取り込むスペースがある。</p> <p>イ)キャンプ瑞慶覧地区内の現在の道路は、地形と整合している</p>
<p>■新市街地形成に係る緑地整備の配慮事項</p> <p>ア)現状の広々とした空間を活かし、街区等を分ける際には予め緑化スペースを確保</p> <p>イ)現道路構成を活かし、地形の改変を抑える。</p> <p>※土地利用が定まっていないため、空間ごとの考え方が必要</p>



<p>考え方③：</p> <p>新たな公園整備や道路沿道への緑化などの新市街地にふさわしい<u>新たな緑のネットワークの創出</u></p>

図2-39 緑地整備の方向性<3>

(7) 緑地整備の考え方

1) 3つの方向性に対する緑地整備の方針

先述の緑地整備の方向性を受け、それぞれの方向性に対する緑地整備の方針を該当するエリアを考慮しつつ提案した。

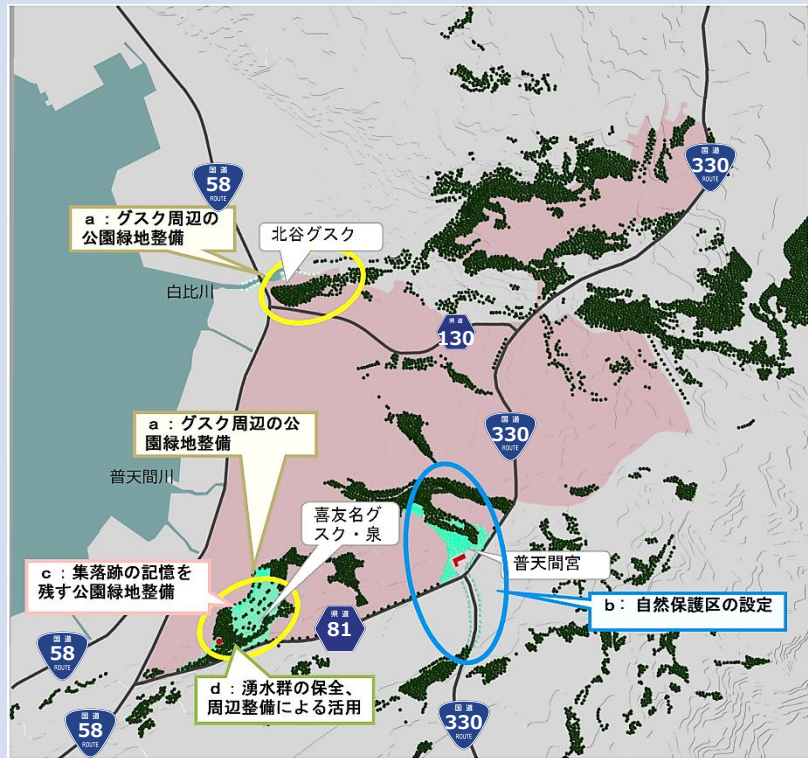
表 2-2 緑地整備の方針<1>

考え方1 : 広域的な緑地構造の形成	
方針図	
方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史文化的資源が豊富であり植生自然度の高いC.段丘斜面エリアに骨格的な緑の保存と再生を図る。(図中 a) ● B.低地部エリア内で東西に走る河川・水路においては、現状植生自然度は低いため、丘陵から海岸に至る緑地の保全・再生を図る。(図中 b) ● 生活と密接し植生自然度も高いR.白比川・普天間川においては、東西の骨格的な緑の保存と再生を図る。(図中 c) ● 西普天間住宅地区は、C.段丘斜面エリア及びD.台地上部エリアに位置し、植生自然度が高く、生活・文化的資源も多いことから、現在の地形の特性を活かしながら整備を進める。(図中 d)
<p>具体的イメージ</p> <p>※詳細は、参考資料参照</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>水・緑の保存 昭和記念公園</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>傾斜地の緑 エディンバラ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>緑のネットワーク つくば研究学園都市</p> </div> </div>

表 2-3 緑地整備の方針< 2 >

考え方²：歴史・文化の伝承と、観光客への魅力提供

方針図



方針

- R.白比川とC.段丘斜面エリアが交じあう北谷グスク周辺については、公園緑地を整備することにより、水・緑・文化・歴史の拠点を形成する。(図中 a)
- R.普天間川の中でも植生自然度の高い普天間洞穴周辺については、動物の生息域を保全するため、自然保護区を設定する(サンクチュアリ整備)(図中 b)
- 湧水が多く湧き出し、過去にも生活の拠点が形成されていたC.段丘斜面エリアの喜友名泉周辺については、集落跡の記憶を残す公園緑地を整備することにより、水・緑・文化・歴史の拠点を形成する。(図中 a、c)

具体的イメージ

※詳細は、参考資料参照



水と緑と触れ合える公園
北本自然観察公園



文化財の復元
船越大川



水・緑の拠点
各務原市

表 2-4 緑地整備の方針<3>

考え方③：新たな緑のネットワークの創出

<p>方針図</p>	 <p>The map shows the island of Okinawa with major roads (58, 130, 330) and rivers (Shirahige River, Uruma River). Callout 'a' points to a park area near Kitayuku. Callout 'b' points to road-side greening along a road. Callout 'c' points to a residential area near Kiyuna. Callout 'd' points to a road area near the coast.</p>
<p>方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●斜面緑地等の特徴的な地形と緑が現存する場所においては、公園・緑地を適切な位置に整備し、緑道や街路樹により緑のネットワーク化を図る。(図中 a) ●新たに整備する道路については、地形を活かした道路線形を用いるなどで沖縄らしい景観を形成したり、歩行者の暑熱対策を図ったりするため沿道緑化を推進する。(方図中 b) ●市街地が形成される場所においては、敷地内の緑化を推進し、緑地率向上に寄与する。(図中 c) ●幹線道路においては現状の緑や地形、景観などを大きく損ねない骨格的な道路緑化を図る。(図中 d)
<p>具体的イメージ</p> <p>※詳細は、参考資料参照</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="496 1608 758 1809">  <p>道路の緑化 沖縄市</p> </div> <div data-bbox="810 1608 1385 1809">  <p>市街地と公園 昭和記念公園 (立川市)</p> </div> </div>

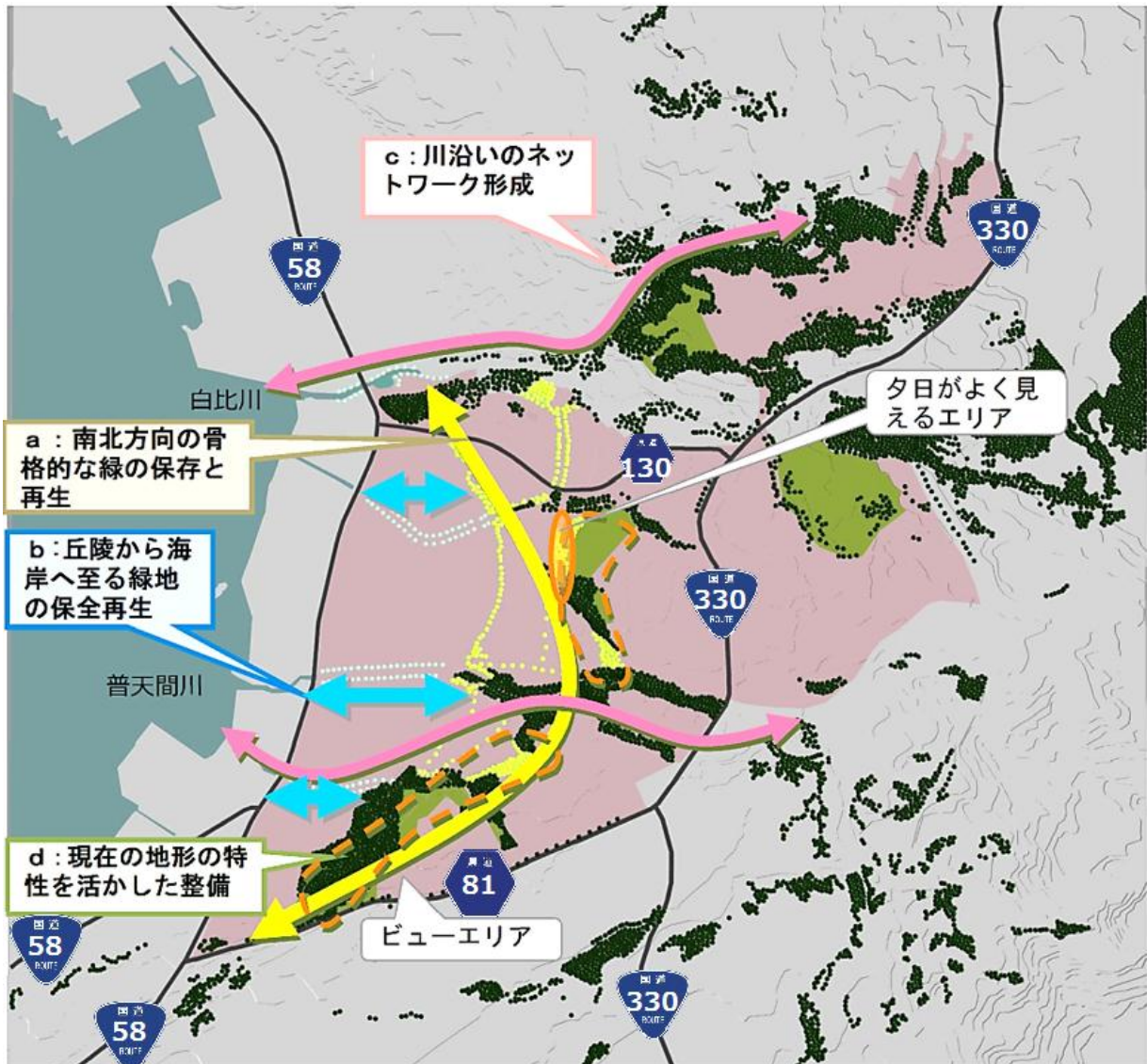
【参考：緑地整備の具体的イメージ（3つの考え方ごと）】

地形や河川・地下水系などを保全・活用した豊かな環境と美しい景観を生み出す広域的な緑地構造の形成

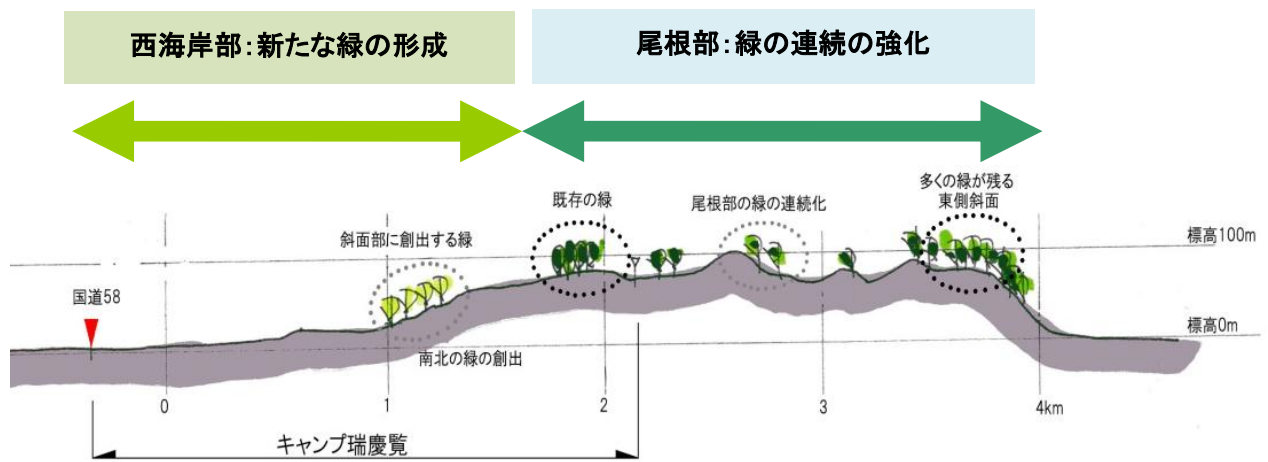
■整備メニュー

- a：対象地中央部丘陵地の南北方向の骨格的な緑の保存と再生
- b：対象地域東側の丘陵から西側の海岸に至る緑地の保全再生
 - b-1：河川周辺の豊かな緑の保全・活用
 - b-2：喜友名の斜面緑地と普天間川の豊かな緑の結節による生態系エリアの拡大
 - b-3：普天間川～白比川間の斜面地に対する新たな緑の創出による緑の軸の形成
- c：川沿いの緑地保全・再生による緑のネットワーク形成
 - c-1：河川周辺の豊かな緑の保全・活用
 - c-2：河川周辺の緑の保全を図るとともに、水際の護岸・河川構造物などへ多自然型工法を適用
 - c-3：水系を軸に緑の保全を図る。
 - c-4：水と緑の拠点整備を図る。
- d：現在の地形の特性を活かした整備を行う。
 - d-1：地形の改変をできるだけ抑え、地下水系の保全を図る。
 - d-2：地形の特性により生まれる各所からの良好な海への眺望性を生かした整備を行う。

【方針図】



a : 対象地中央部丘陵地の南北方向の骨格的な緑の保存と再生

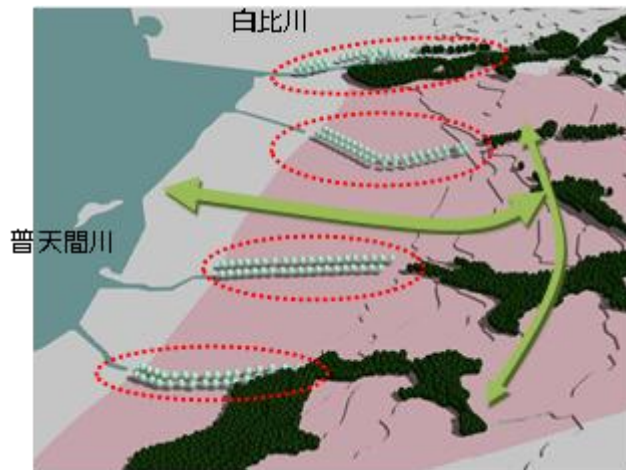


b : 対象地域東側の丘陵から西側の海岸に至る緑地の保全再生

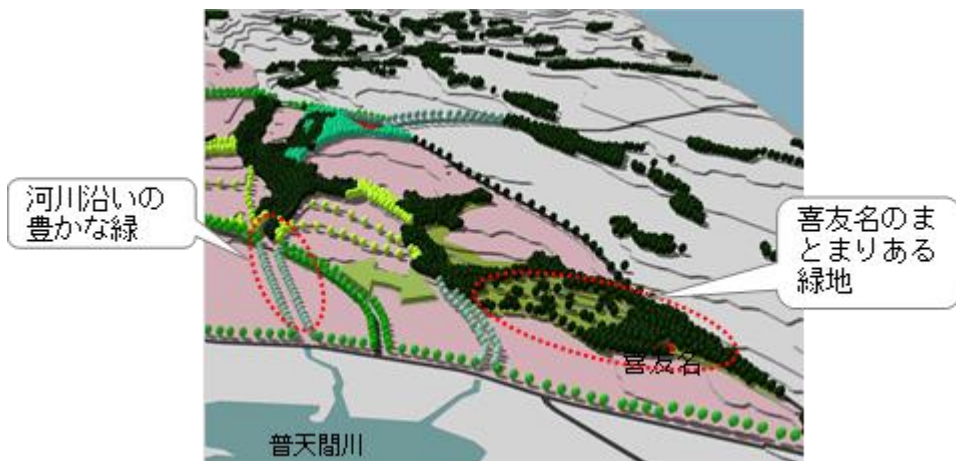
b-1 : 河川周辺の豊かな緑の保全・活用

c : 川沿いの緑地保全・再生による緑のネットワーク形成

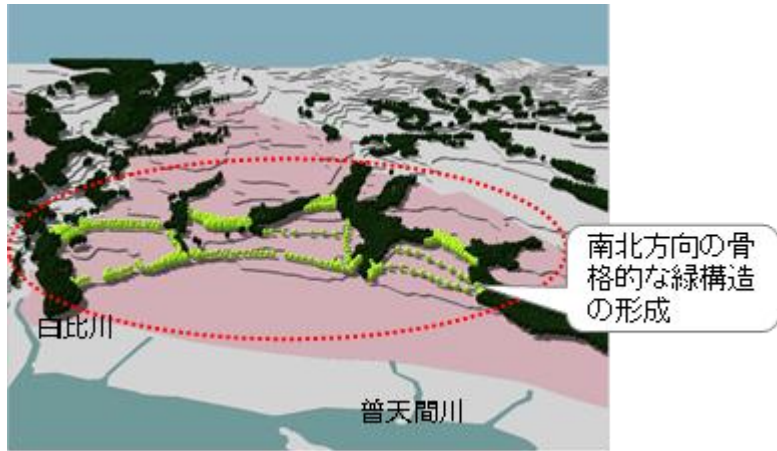
c-1 : 河川周辺の豊かな緑の保全・活用



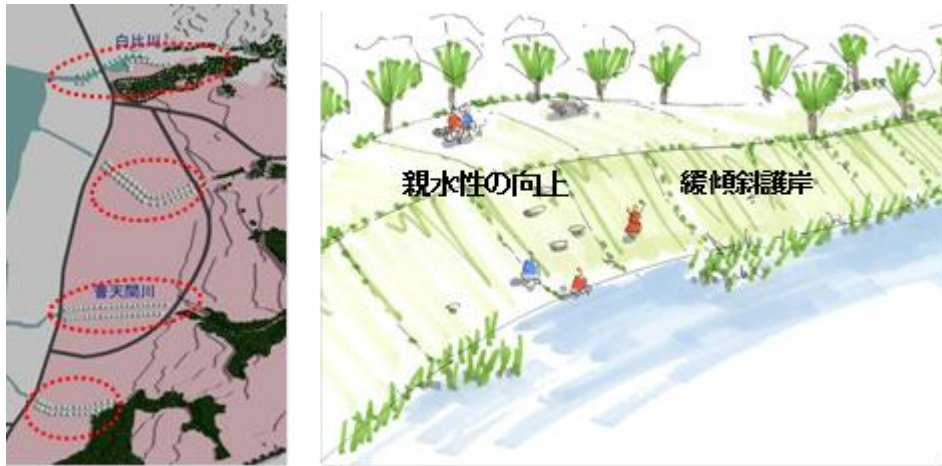
b-2 : 喜友名の斜面緑地と普天間川の豊かな緑の結節による生態系エリアの拡大



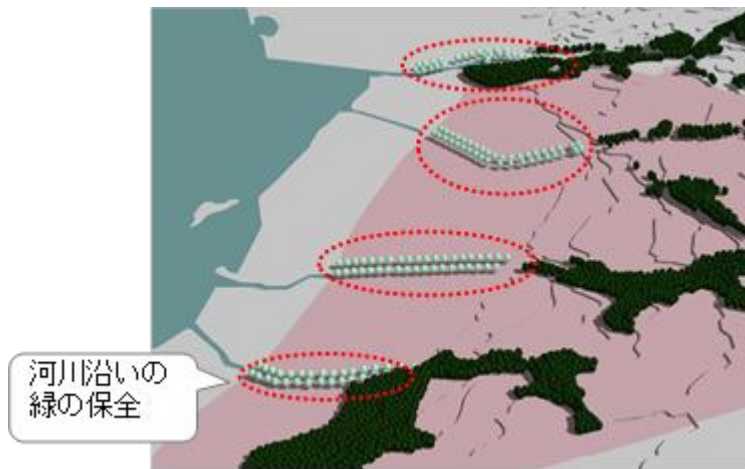
b-3：普天間川～白比川間の斜面地に対する新たな緑の創出による緑の軸の形成



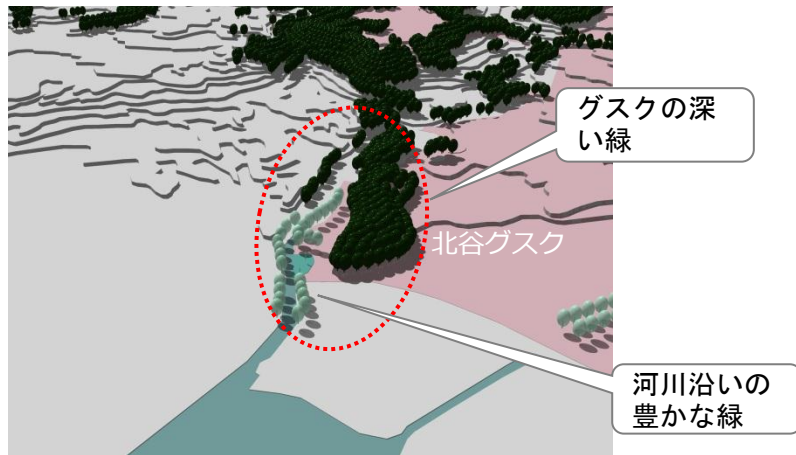
c-2：河川周辺の緑の保全を図るとともに、水際の護岸・河川構造物などへ多自然型工法を適用



c-3：水系を軸に緑の保全を図る。

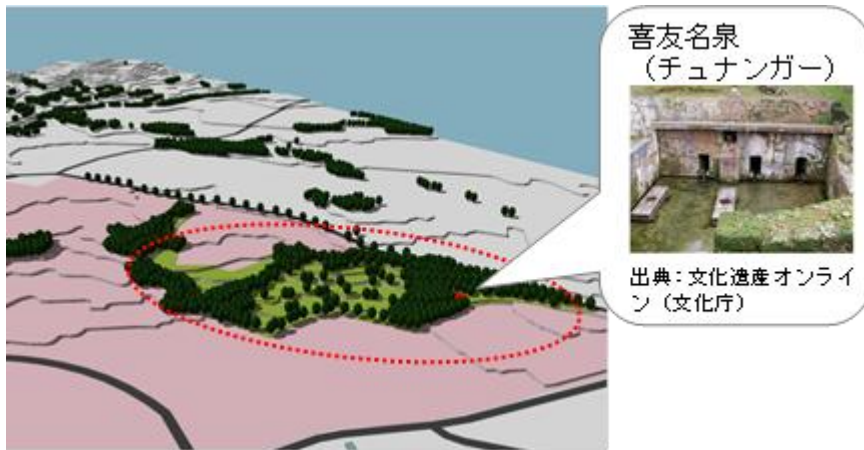


c-4：水と緑の拠点整備を図る。

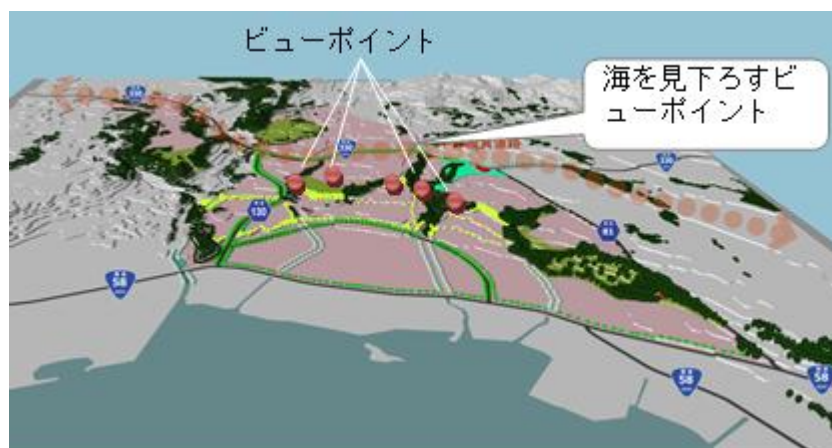


d：現在の地形の特性を活かした整備を行う。

d-1：地形の改変をできるだけ抑え、地下水系の保全を図る。



d-2：地形の特性により生まれる各所からの良好な海への眺望性を生かした整備を行う。

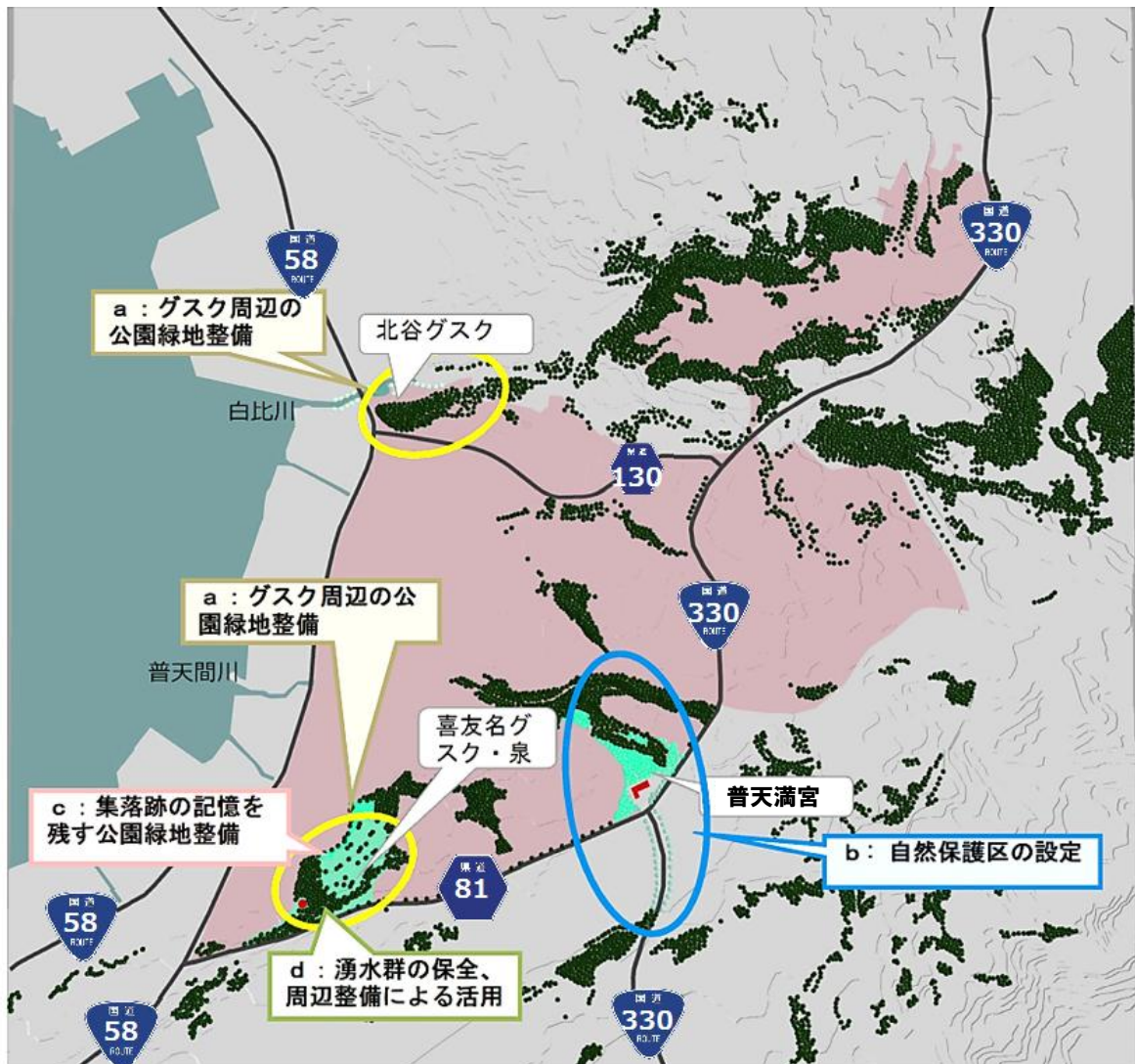


歴史文化資源、自然資源などと一体となった緑の保全・活用により地域の方々への歴史・文化の伝承と、観光客への魅力提供

■整備メニュー

- a : グスク周辺の公園緑地整備
 - a-1 : 北谷グスク、御嶽など歴史的な資源においては、河川との拠点整備を図り、水と緑の文化拠点として整備を図る。
 - a-2 : 喜友名グスク周辺には多く残る文化財と合わせた一体的な拠点整備を行う。
- b : 普天満宮洞穴周辺における自然保護区（サンクチュアリ）の設定
 - b-1 : 普天満宮洞穴周辺は緑を復元し、普天間川周辺の緑と連続化し、生態系エリアの拡大を図る。
 - b-2 : 旧並松街道沿いでは、松並木を復元させ、普天間基地との緑のネットワーク化を図る。
- c : 集落跡の記憶を残す公園緑地整備
 - c-1 : ほとんど集落跡は無くなっているものの、喜友名周辺には、湧水、棚田跡を含め、生活の跡が残っている。グスクや眺望の良さも活かし、後世への継承のみならず観光客にも魅力となる整備を図る。
- d : 斜面の緑にある湧水群の保全、周辺整備による活用
 - d-1 : 喜友名においては、湧水を活用した棚田の復元などにより文化性、景観性を向上させる整備を行う。

【方針図】



a : グスク周辺の公園緑地整備

a-1 : 北谷グスク、御嶽など歴史的な資源においては、河川との拠点整備を図り、水と緑の文化拠点として整備を図る。



a-2 : 喜友名グスク周辺には多く残る文化財と合わせた一体的な拠点整備を行う。

喜友名グスク周辺 (イメージ)

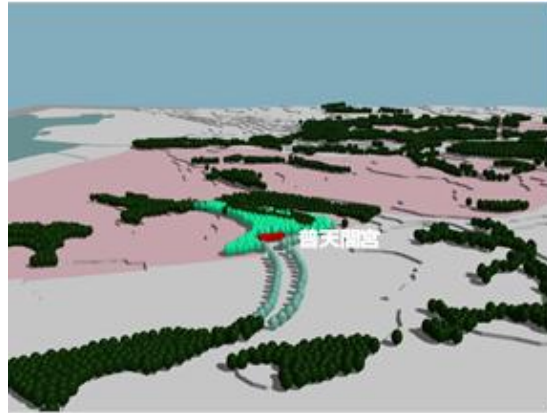


b : 普天満宮洞穴周辺における自然保護区 (サンクチュアリ) の設定

b-1 : 普天満宮洞穴周辺は緑を復元し、普天間川周辺の緑と連続化し、生態系エリアの拡大を図る。

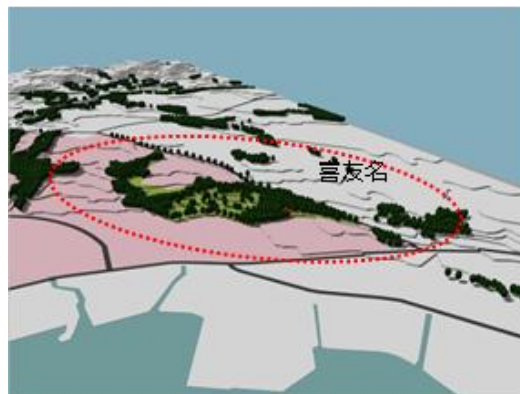


b-2：旧並松街道沿いでは、松並木を復元させ、普天間基地跡地との緑のネットワーク化を図る。



c：集落跡の記憶を残す公園緑地整備

c-1：ほとんど集落跡はなくなっているものの、喜友名周辺には、湧水、棚田跡を含め、生活の跡が残っている。グスクや眺望の良さも活かし、後世への継承のみならず観光客にも魅力となる整備を図る。



d：斜面の緑にある湧水群の保全、周辺整備による活用

d-1：喜友名においては、湧水を活用した棚田の復元などにより文化性、景観性を向上させる整備を行う。

喜友名周辺（イメージ）



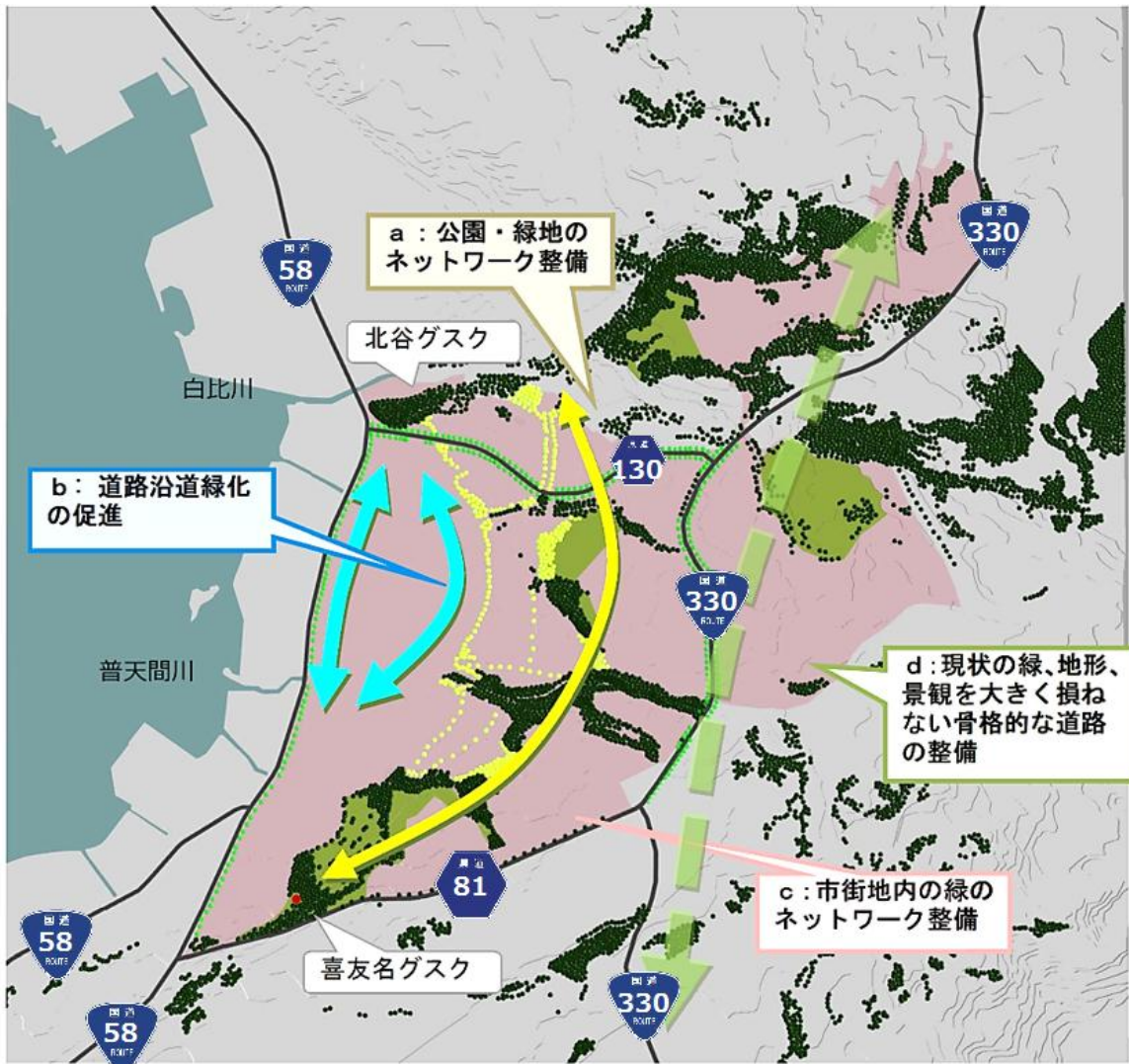
棚田の復元や喜友名泉など一体的な公園を整備

新たな公園整備や道路沿道への緑化などの新市街地にふさわしい新たな緑のネットワークの創出

■整備メニュー

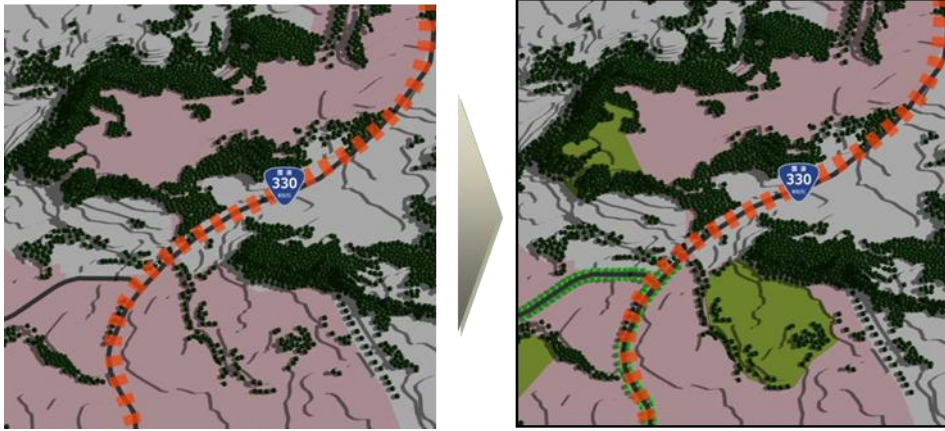
- a : 公園・緑地のネットワーク整備
 - a-1 : 既存の緑を上手に活用した公園の整備
 - a-2 : 既存の緑と緑との間への公園等整備による緑のネットワーク向上
- b : 道路沿道緑化の促進
 - b-1 : 地区内の主要道路は現在の道路構成を活かし、道路周辺にある緑についても保全する。
 - b-2 : 街路樹を植えることを基本とし、要所にポケットパーク整備により緑陰効果を確保する。
- c : 市街地内の緑のネットワーク整備
 - c-1 : 区画割りごとにまとまった緑量を確保し、緑地率の向上を図る。
 - c-2 : 高木のみならず、芝～中木などを上手に活用した変化のある・飽きのこない緑のネットワーク形成を図る。
- d : 現状の緑、地形、景観を大きく損ねない骨格的な道路の整備
(⇒道路ネットワークの検討と調整)
 - d-1 : 地形と整合した平面線形 (地形の美しさを損なわない)
 - d-2 : 切り盛りの出現を抑えた縦断線形 (自然・自然景観の保全)
 - d-3 : 緑の分断を避ける道路線形・構造 (自然保全)

【方針図】

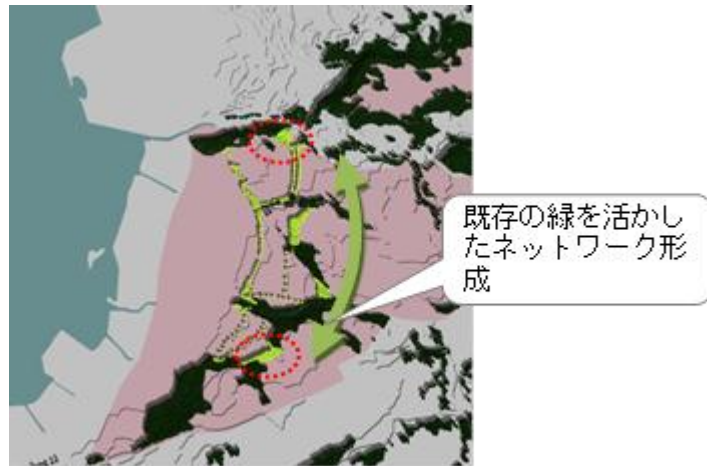


a : 公園・緑地のネットワーク整備

a-1 : 既存の緑を上手に活用した公園の整備

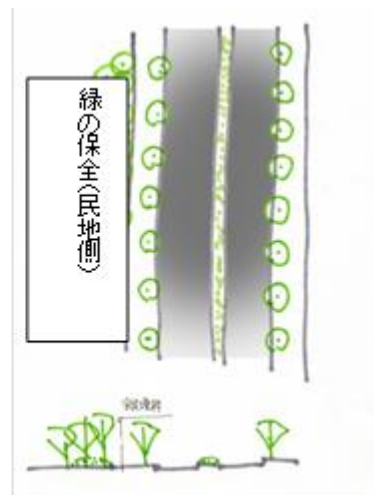


a-2 : 既存の緑と緑との間への公園等整備による緑のネットワーク向上

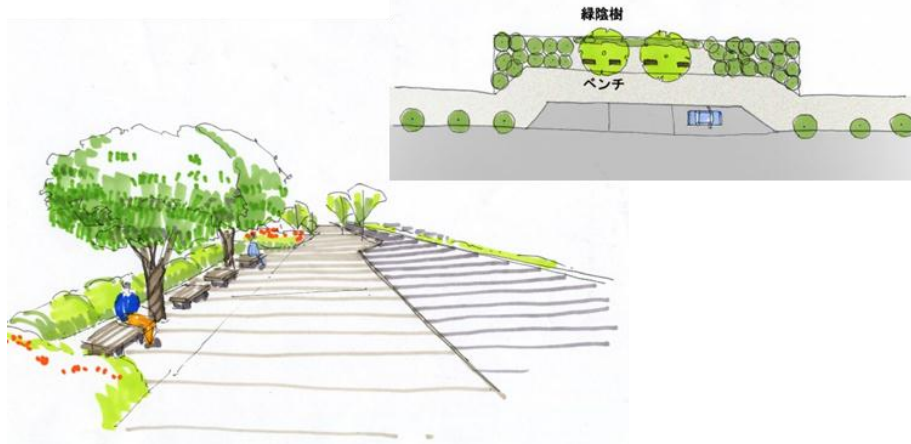


b : 新規に整備する道路沿道緑化

b-1 : 地区内の主要道路は現在の道路構成を活かし、道路周辺にある緑についても保全する。

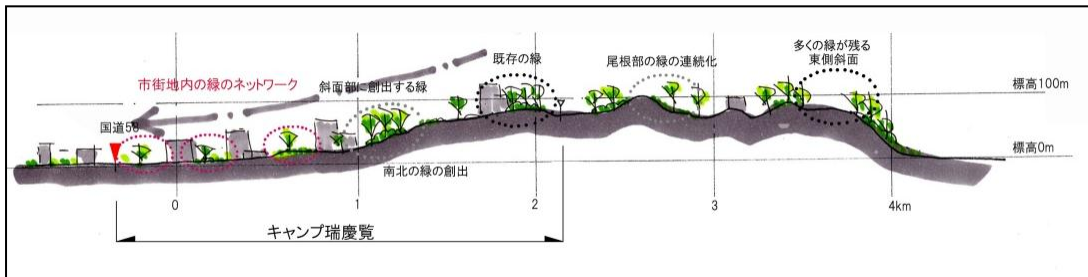


b-2：街路樹を植えることを基本とし、要所にポケットパーク整備により緑陰効果を確保する。

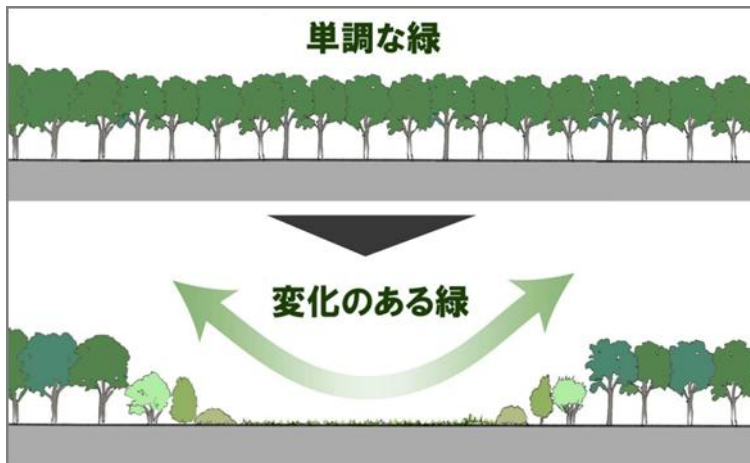


c：市街地内の緑のネットワーク整備

c-1：区画割りごとにまとまった緑量を確保し、緑地率の向上を図る。

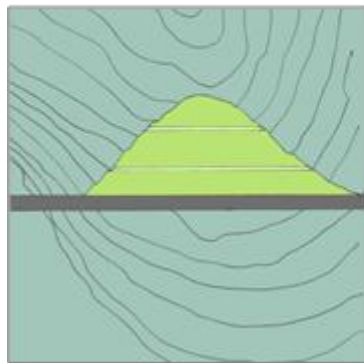


c-2：高木のみならず、芝～中木などを上手に活用した変化のある・飽きのこない緑のネットワーク形成を図る。

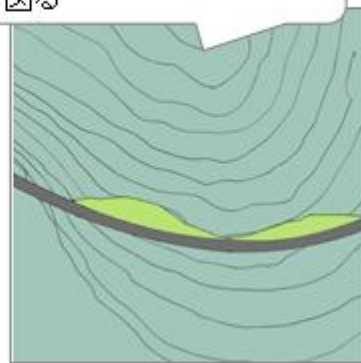


d : 現状の緑、地形、景観を大きく損ねない骨格的な道路の整備 (⇒道路ネットワークの検討と調整)

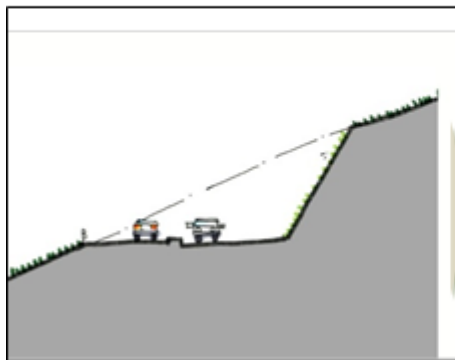
d-1 : 地形と整合した平面線形 (地形の美しさを損なわない)



地形となじむ平面線形を確保し、切土面の縮小を図る



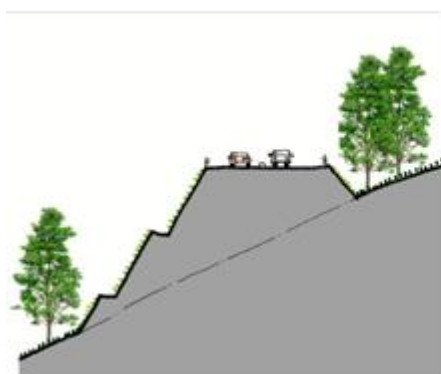
d-2 : 切り盛りの出現を抑えた縦断線形 (自然・自然景観の保全)



上下線を分離し、地形の改変を少なくした盛土による道路線形



d-3 : 緑の分断を避ける道路線形・構造 (自然保全)

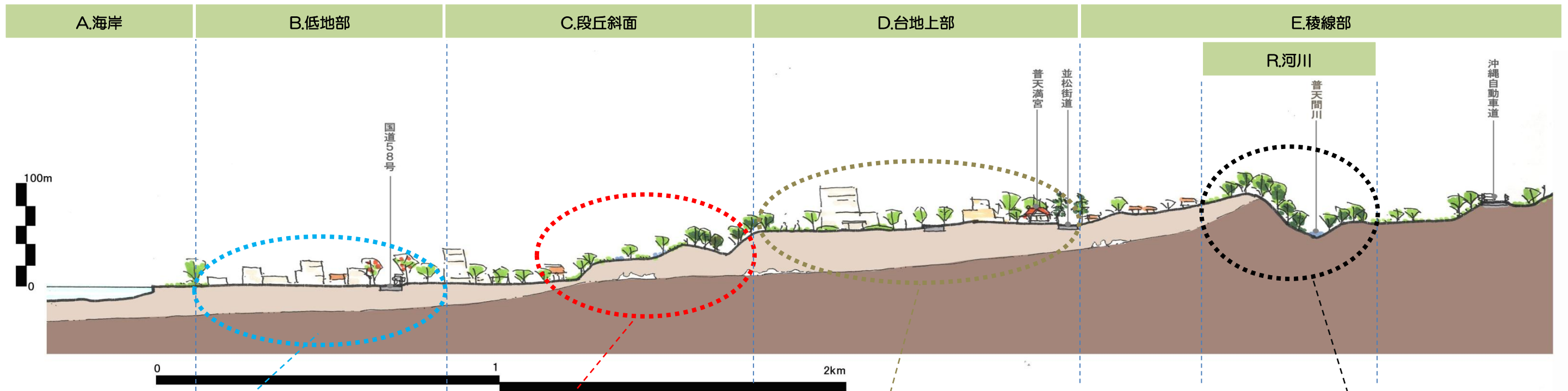


緑の連続性を確保する高上げ式の道路構造



2) エリア毎の緑地整備の考え方

緑地整備の方針を受け、エリア毎の整備の考え方を整理した。



低地部の緑化誘導・国道58号沿道への緑化

【エリア特性】

- 国道58号を中心として南北に伸びるエリア（インダストリアルコリドー）
- 自然度の高い植生は見られず、一部で河川と交差する

【緑地整備の考え方】

- 開発後の地域とみどりの保全と創出
- 国道58号及び地区内道路の沿道緑化と敷地内緑化の誘導
- 河川との交差点などにおける癒しと憩いの場の形成等

バス停の緑陰（糸満市）

緑化誘導イメージ（つくば研究学園都市）

段丘斜面の緑地保存・文化財の復元

【エリア特性】

- 4つの川筋部分を中心として、南北方向に自然度の高い植生が断続的に見られる。
- 段丘斜面は、中南部都市圏全体で形成され、普天間飛行場にも連続する。

【緑地整備の考え方】

- 歴史文化的資源である既存の緑地の保全と活用
- 樹木が茂る丘陵地を背景に水系を軸にした緑の誘導
- 歴史的資源を活用し、文化拠点となる水と緑の公園緑地整備等

文化財復元イメージ（船越大川）

湧水の出る喜友名周辺の現況

住居、商業・業務地への緑化誘導

【エリア特性】

- 自然度の高い植生が見られる川筋と自然度の高くない平坦な台地（基地内の住宅地）が交互に連続する。
- 高台から見下ろす「西海岸」への開放的な景観が続き、良好な風景を眺めるスポットが多い。

【緑地整備の考え方】

- 潤いやゆとりある住宅地に丘陵地の緑の保全と活用
- 地形と地区内の道路ネットワークに応じた沿道緑化と開発後の敷地内緑化の誘導
- 良好な風景を眺めるスポット整備、生活者へのポケットパーク整備

緑化誘導イメージ（那覇新都心）

屋上緑化イメージ（新潟市）

緑化誘導イメージ（三井住友海上駿河台ビル）

河川空間の緑地保存と活用

【エリア特性】

- 4つの河川、湧水と地域内には水辺が豊富。
- 特に白比川には豊富な緑が残っている。普天間川の低地部は人工的。
- 歴史、文化的な資源と重なる箇所も多い。

【緑地整備の考え方】

- 多自然川づくりを基本とし、人と川の関係を取り戻す。
- 下流域では、親水空間の確保を図る。
- 中上流域では、豊かな緑の保全を図る。

ビオトープ整備イメージ（白川公園）

現況の豊富な緑（白比川）

図2-40 エリア毎の緑地整備の考え方

3) 地区毎の緑地整備の考え方

緑地整備の方針を受け、当地区中の返還予定地における緑地整備の考え方を整理した。



図2-41 返還地区毎の緑地整備の考え方

4) まちに創出される空間毎の緑地整備の考え方

緑地整備の方針を受け、まちに創出される空間ごとの緑地整備の考え方を整理した。

ア. 道路空間における緑地整備

◇整備の方向

[幹線道路、補助幹線道路]

- ・ 沖縄らしさの演出を図る緑化整備
- ・ 必要に応じて、緑豊かな道の駅やパーキングエリアの整備
- ・ 沿道地側の緑の活用による緑量感の形成

[区画道路]

- ・ 生活の場としての居住環境を向上させる緑化整備

[特殊道路（シンボルロード）]

- ・ 必要に応じてまちと海を結ぶ緑のシンボルロードの形成

[新設道路及び道路改良]

- ・ 地形改変などを抑えた道路整備
- ・ 土工部の人工的な印象の軽減



道路の緑化 沖縄市



バス停の緑陰 糸満市

◇整備イメージ

- 沖縄らしさの演出を図る緑化整備 ⇒ 前後区間の樹種と整合性を図る。南国らしさを感じさせる樹種の選定。花木などの採用により華やかさの演出
- 緑豊かな道の駅やパーキングエリア ⇒ 緑陰効果を考慮した樹種、花木などの採用により華やかさの演出
- 沿道地側の緑の活用による緑量感の形成 ⇒ 沿道地側と協定し、沿道側の緑を合わせて活用し、緑量感を形成する。
- まちと海を結ぶ緑のシンボルロードの形成 ⇒ 緑量豊かなシンボル軸を形成する。
- 地形改変などを抑えた道路整備 ⇒ 地形と整合した平面線形、切り盛りを抑える縦断線形、緑の分断をさける道路構造
- 土工物の人工的な印象の軽減 ⇒ 切土の緑化处理、盛土や擁壁の緑化处理

イ. 公園空間における緑地整備

◇整備の方向

[広域公園、特殊公園]

- ・既存の緑（斜面緑地）を活用した公園
- ・接收前の昔を再現し後世に文化・生活を伝承することの出来る公園
- ・グスクなど歴史を継承することが出来る公園
- ・夕日の見える西海岸側の眺望を活かしたビュースポットの形成

[地区公園、近隣公園]

- ・新たな生活の場にふさわしい公園
- ・緑陰効果のある公園
- ・夕日の見える西海岸側の眺望を活かしたビュースポットの形成

[緑地]

- ・既存の斜面緑地を保全する緑地
- ・河川を保全するための緑地
- ・湧水を保全するための緑地
- ・御嶽など聖域を保全する緑地



公園整備（番所公園）



市街地の公園整備
（昭和記念公園）

◇整備イメージ

○広域公園、特殊公園

- ⇒ 喜友名周辺の棚田、湧水、グスクを活用した歴史公園整備
- ⇒ 国道330号東側の広域公園整備

○地区公園

- ⇒ 西普天間住宅地内の既存の緑を活用した地区公園整備
- ⇒ 県道130号線南側の海への眺望性を活かした地区公園整備

ウ. 河川空間における緑地整備

◇整備の方向

[下流域]

- ・多自然型川づくりを基本とし、人と川の関係を取り戻す。
- ・親水空間の確保を図る。
- ・ワンドなど整備によりマングローブ林の再生を図ることが考えられる。
(遊水池効果として期待)

[中・上流域]

- ・多自然型川づくりを基本とし、良好な河川環境を再生する。
- ・必要に応じて自然遊水池（霞堤式）の整備を図り洪水対策に寄与する。
出来るかぎり保水能力を高めるとともに良好な河川環境を再生する。



ビオトープ整備（白川公園）



湯川ふるさと整備（軽沢）

◇整備イメージ

○下流域

⇒ 北谷城のワンド整備、親水護岸の整備、河川沿いの並木の形成

○中・上流域

⇒ 自然遊水池（霞堤式）の整備、緑の保全と再生

エ. 宅地空間における緑地整備

◇整備の方向

[公共施設]

- ・地域のシンボリック施設として緑化の先駆的役割、地域規範となる緑化

[商業施設]

- ・公共緑地の確保

[住宅地]

- ・緑地率の向上



現在の住宅（キャンプ瑞慶覧）



住宅地内の緑（新都心）

◇整備イメージ

○公共施設

⇒ 公共緑地の確保、壁面後退やセットバックによる緑化、屋上緑化や壁面緑化などによる緑視率の向上、駐車場などの緑化

○商業施設

⇒ 公共緑地の確保、壁面後退やセットバックによる緑化、屋上緑化や壁面緑化などによる緑視率の向上、駐車場などの緑化

○住宅地

⇒ 緑地協定による緑地の確保、生垣などによる緑視率の向上